

# 人口減少

## データでみる 福智町のイマ (平成27年平均)

### ① 1か月あたりの「出生」



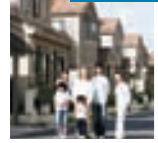
約 **14**人

### ② 1か月あたりの「死亡」



約 **30**人

### ③ 1か月あたりの「転入」



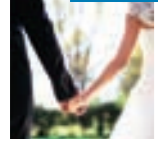
約 **60**人

### ④ 1か月あたりの「転出」



約 **81**人

### ⑤ 1か月あたりの「結婚」



約 **9**件

### ⑥ 1か月あたりの「離婚」



約 **5**件

人口推計の中で特に目立つのは「少子高齢化」です。図1、2からも分かる通り、年少人口はかなりの減少が予想されています。子どもの数が減少し、将来の人口が維持できない↓働く人口・生産年齢人口も減少↓総人口も減少↓消費も減り

## 減少・縮小・低下の文字で表されるまちの未来

人口が減少すれば、まちの政策をはじめ各種取組の規模が縮小し、地域経済も低迷。地域を支える人材も不足し、まちの活力や成長力が衰えます。商圏や経済圏も縮小し、生活インフラである商店などが廃業・撤退。同時に、公共交通機関も縮小。その利便性の低下から、「買い物難民」や「生活難民」が増加する傾向にあります。加えて、地域コミュニティの維持も困難になり、学校の廃校や保育所の閉所、病院の閉院、公民館の閉館など、

下げ止まりの見えない人口減少は経済全般、年金などの社会保障、労働市場に大きな影響を与える深刻な問題です。人口減少が地域経済の縮小をよび、地域経済の縮小が人口減少をよぶ。すでに福智町はそんな負の悪循環の連鎖に陥り、推計値でも将来予想を下回っています。平成27年の年間動向(項目別1月平均値)でも、実際に福智町の人口は減少しています。過去を知り、現在を理解することでこの先何ができるのか。「待ち」の姿勢ではなく「攻め」の姿勢で、10年、20年先という長期的な視点を持ってまちの姿をみていくことがカギとなっています。

福智町の総人口は炭鉱最盛期の昭和30年に4万2千257人を記録したあと、エネルギー革命による基幹産業・炭鉱の閉山とともに下降の一途をたどります。炭鉱に替わる新たな基幹産業を生み出せないまま、平成7年には老年人口(65歳以上)が年少人口(15歳以下)を上回り、平成22年には2万4千714人と炭鉱最盛期の約半数に激減。国の結果から今後を予測すると、福智町は図1のような下降線をたどることが見込まれています。実際に町の推定値をみても、予想を超えるスピードで人口減少の波が押し寄せ、もはや静観できる状況ではなくなってきました。

## あたりまえの暮らしがあたりまえでなくなる？

経済の規模が縮小し、税金も減り、行政サービスが低下する...といった影響が考えられます。また老年人口を支える状況も、現在は2人で1人を支えています。図1、2が示すように、この先、約1人で1人を支える「肩車型」のかたち。医療費・介護費用も全額負担するような社会になれば、現役世代は自分たちの生活が立ち行かなくなることも考えられます。

## 下降線のカーブをゆるやかにするために

多くの公共施設の閉鎖が余儀なくされます。当然、多数の町職員削減が必要になり、行政サービスの量と質の大幅な低下を招くことも予測され、結果、地域社会のさまざまな基盤の維持が困難になることが予想されています。



今回の特集はいつもの「広報ふくち」と少し趣が違います。お知らせするのは福智町の現状と予想。国立社会保障・人口問題研究所(「社人研」)や国勢調査の結果を見ると、日本全体を覆う人口減少の波がこのまちにも押し寄せていることがうかがえます。平成18年3月6日に福智町が誕生して、今年でちょうど10年。節目を迎えた今だからこそ、このまちの過去、現在、そして未来について、少し考えてみませんか？

図1 年齢区分別人口推計【昭和60年(1985)~平成52年(2040)】

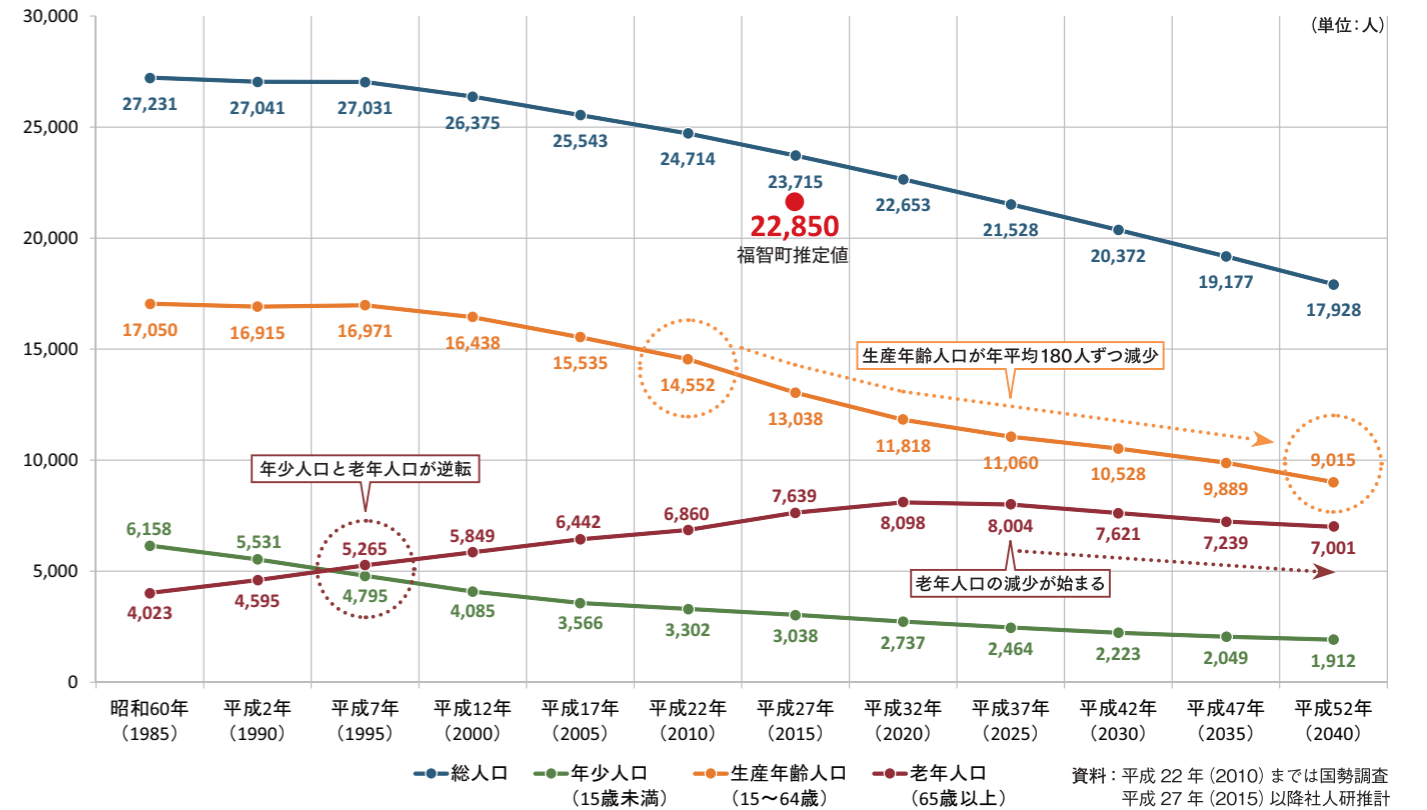


図2 年齢区分別構成割合【昭和60年(1985)~平成52年(2040)】

